

## ▼ セデス G [内] &lt;製造中止&gt;

【重要度】【製造中止薬品】 【一般製剤名】特徴参照 【分類】解熱鎮痛剤

【単位】▼g(1包1g)

【常用量】3～4g(屯用の場合には、1回1～2g)ただし1日最高4gまでとする。

【用法】分3～4(食後)、間隔は少なくとも4時間以上あけること。

【透析患者への投与方法】減量の必要なし

【保存期腎不全患者への投与方法】腎障害悪化の恐れがあるため、できるだけ投与しない。CLCr>50mL/min :減量の必要なし, CLCr10～50mL/min :減量の必要なし, CLCr<10mL/min :腎障害悪化の恐れがあるため慎重投与となっているが減量の必要はない (5)

【特徴】1g中、イソプロピルアンチピリン 150mg、アリルイソプロピルアセチル尿素 60mg、フェナセチン 250mg、カフェイン 50mg 含有。イソプロピルアンチピリン、フェナセチン(解熱鎮痛成分)、無水カフェイン(中枢興奮作用、脳血管収縮作用)、アリルイソプロピルアセチル尿素(解熱鎮痛成分の効力増強作用をもつ催眠鎮静成分)の配合剤。フェナセチンは抗炎症作用を持たない。

【主な副作用・毒性】喘息発作誘発

【tmax】約0.5hr

【代謝】フェナセチンはCYP1A2によって代謝(O-脱メチル化)され、カフェインはCYP1A2によって代謝(N-脱メチル化)される(9)。アセトアミノフェン(フェナセチンの代謝物)はCYP2E1で代謝。

【TDMのポイント】TDMの対象にならない

【備考】本剤、ピラゾロン系薬剤(スルピリン、アミノピリン等)またはアミノフェノール系薬剤(フェナセチン等)に対し過敏症の既往歴のある患者に投与しないこと。大量のアルコールを定期的に摂取すると、肝障害が増強する。

【更新日】20080715

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。